

科目区分：人文・社会科学科目

授業科目名	経済と経営(経営学入門)				学期	曜日	校時
英語名	Economics and Business (introduction to management study)						
担当 教員名	宇都宮 讓	単位数	2単位	必修 選択	選択	後期	金曜日 1校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>本講義の目的は、受講者がマネジメントサイクルを体得する一助として、経営学の祖 F. W. Taylor による科学的管理法の諸要素を講義と実験によって学ぶことです。目的達成のために、キーワードに関する講義と事例検討 キーワードに関する実験 実験報告書提出という3サイクルで作業を設計・施工・管理する手法を学びます。</p>							
テキスト、教材等							
<p>講義中は以下の文献・材料と担当教員が作成するハンドアウトを併用します。</p> <p>1/3: 土屋守章(1994)『現代経営学入門』新世社。 2/3: 荒木孝治編(2005)『フリーソフトウェア R による統計的品質管理入門』日科技連出版社。 3/3: 実践経営研究会監修(1990)『現場管理者にパワーをつける事典』日刊工業新聞社。 その他、実験材料として¥2,500 ほどのレゴブロック(型式は初回講義にて例示)を購入してください。</p>							
対象学生	成績評価の方法				教員研究室		
全学部	・授業への参加状況:10% ・実験報告および期末レポート:50%: ・試験:20%						
授業計画							
<p>第1回 イントロダクション：本講義の目的や進捗、対象について確認しつつ説明します。</p> <p>第2回 基礎知識 1/2 産業分類と企業形態：業種と資金調達法に基づく企業分類基準を学びます。</p> <p>第3回 基礎知識 2/2 企業内における組織形態：企業内部組織の形態と各部門の作用を学びます。</p> <p>第4回 F. W. Taylor の科学的管理法 1/2：科学的管理法を構成する諸要素と誕生する背景を学びます。</p> <p>第5回 F. W. Taylor の科学的管理法 2/2：科学的管理法の作用と現代に息づく応用事例を検討します。</p> <p>第6回 実験 1/4 動作研究：仕事を分析的にとらえる行為に慣熟します</p> <p>第7回 生産職場における訓練：職務遂行能力や能力開発手法について学びます。</p> <p>第8回 実験 2/4 時間研究と習熟曲線：ある仕事における標準作業量を確立します。</p> <p>第9回 標準原価計算：確立した標準作業量に基づいて、生産に要する費用を産出する手法を学びます。</p> <p>第10回 損益分岐点：前回の結果を用いて、生産活動が可能かどうかを考察する手法を学びます。</p> <p>第11回 実験 3/4 標準作業量および実行可能性検証：標準作業量が適切かどうか検証します。</p> <p>第12回 改善活動：QC7 つ道具で把握する事実に基づき作業標準を改善するアイデアを発想します。</p> <p>第13回 実験 4/4 改善活動：標準をよりよいものにするために知恵を出し、まとめる習慣をつけます。</p> <p>第14回 予備日</p> <p>第15回 試験</p>							
<p>オフィスアワー(質問受付時間): 講義終了後も受け付けますが、電子メール yuzuru@net.nagasaki-u.ac.jp による質問も歓迎します。 研究室におこしいただく場合は前日までに上記連絡先まで連絡いただき、日程調整されますと確実です。突然おこしいただいても在室していないかもしれません。</p>							